

きざりのきざり

NO.29
月刊

昭和三十五年十一月一日発行 (非売品)
発行所 岡山県都窪郡吉備町庭瀬七〇七字垣方
吉備観老協会

○ 観音下の古墳 (その二)

祠の左に係んで高さ一・八米、二段の台石の上に三十煙に二十五煙角の直方形の石柱をたてその表面に

「南無妙法蓮華經 除疫病 觀音菩薩 疮瘡守」と刻み、下部に觀

音菩薩の佛像を浮彫りしている。右面には「月心坊舊跡 吉邑 謹中」と刻んである。

左面には「正法寺 廿二世 日廣代 建」と刻んである。その左に自然石の塔がある。表面に「谷住明王 奉勸請 中山修験者

高山院 明治廿四年三月廿五日」の文字が読まれる。観音下の古墳と呼ばれるのはこれに起因するのである。勿論この石碑は

古墳とは何のなみわりもなく後世古墳の上に建てたものである。この觀音菩薩の石碑は浄泉山正法寺の廿二世日廣上人が建碑したのであるが、年代がみえない。正法寺の過去帳によると明治の初期に建て

られたものと思はれる。もと正法寺の末寺月心坊という草坊がここにあつたが、日廣上人の時代にはすでに廢絶していたのである。

毎年秋には正法寺の寺僧が参詣し祭祀を行ふということがある。以上所記した古墳のほかにもこの地域には矢張治山一帯を始め、到る處の

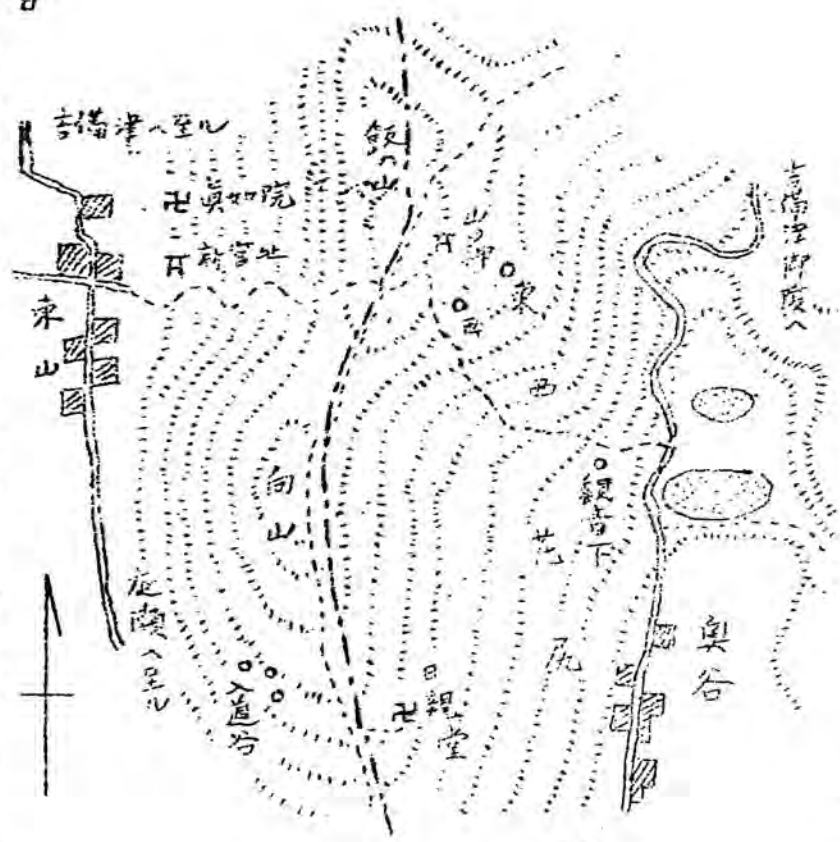
山腹、溪間に数多大小の古墳が散在していたが、心なき奴輩の仕業によつて徒らに茶掘せられ埋葬品の如きは悉く盗まれ、冢石さえも持ち去ら

れて跡形は歲月の流れとともに消えてゆくのである。

観音下の古墳見取図



向山附近の古墳分布図



昭和二十九年頃、東花尻の農家森安曾

手治が東花尻の西矢張治という地名の山畠なら小さな古墳を発見したが

すでに茶掘されたものな内部には何もなかつた。小兎を埋葬したもので

なく小石棺にして運搬に容易なため自家に持ち帰り溝蓋に使用していた

が家族に不幸なことが起り、悪夢にうなされたので氣味悪く思以後難と

恐れ又もとの所へ埋めたというのである。その蓋石だけは妙傳寺境

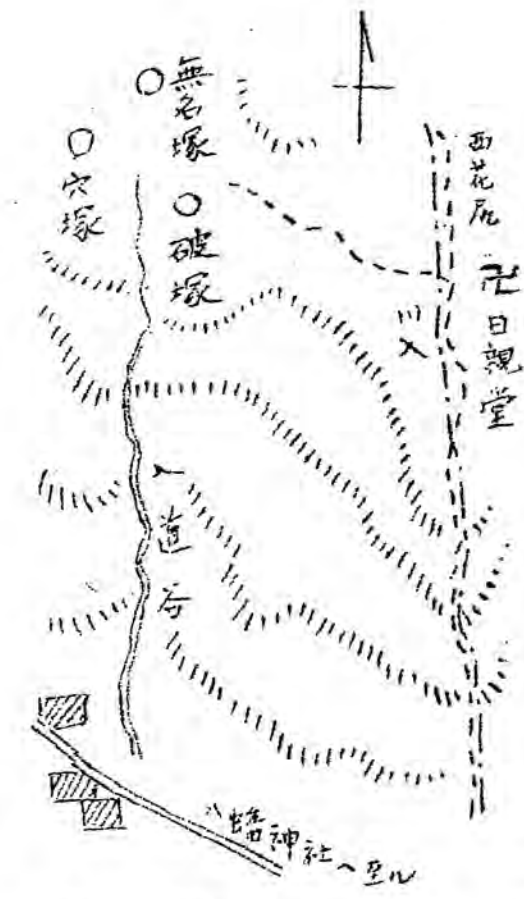
○ 向山の古墳

奥谷の西を遡る山を向山という。この一帯に日蓮宗の日觀堂がある。この

附近に三基の円丘があつて昔は俗に「狼の相撲場」と呼んでゐる。

頂は十三平方米ばかりの平坦な土地になつて、したが、今は一ヶ所だけ認められ、他は破壊せられてしまつたという。

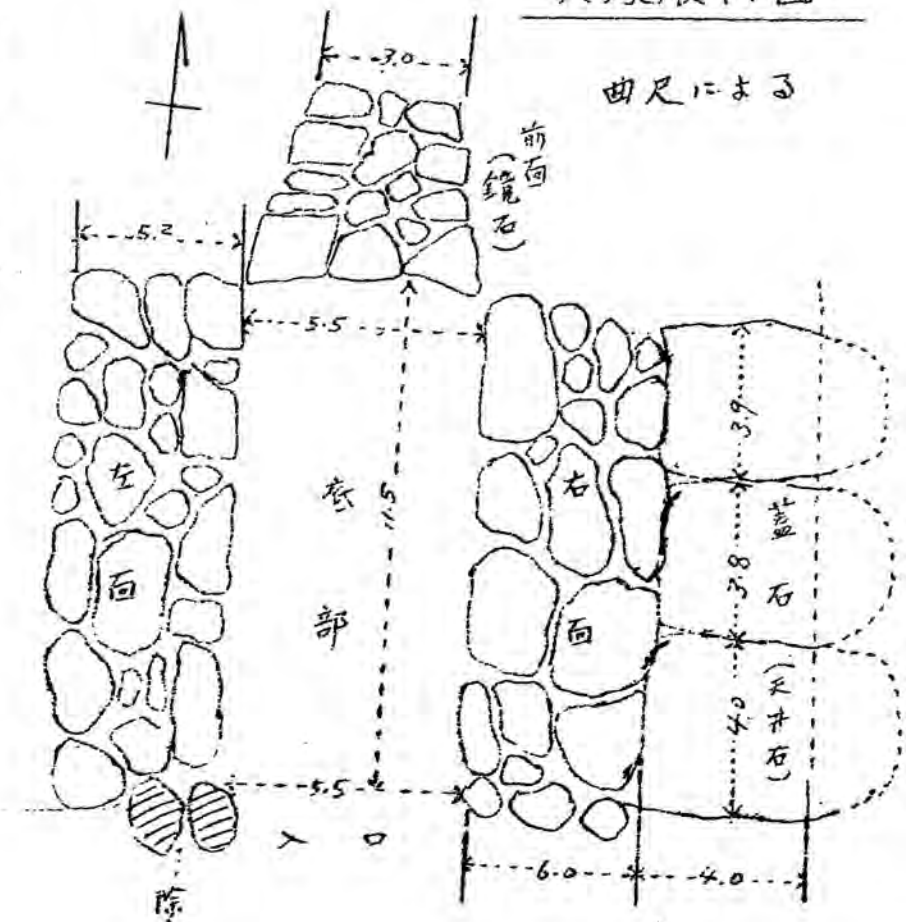
○ 入道谷の古墳
 向山の中腹、日親堂の西に南へ落ちる谷間がある。この谷間を俗に入道谷といつてゐる。この谷を昇り詰めた麓の雑木林のなかに、川入一三三五番地三星の古墳が存在してゐる。その一つを穴塚といひ、横穴式円墳にして南を正面にしてゐる。この墳は蓋石も他に運ばれたものか、内部には石棺はなく、割栗石が散乱し、入口の蓋石も他に運ばれて開放のまゝ、で山の上によつて埋まれている。構造は大きな自然石を三個を列べて天井に用ひ、内部の壁面は割石と自然石を積み重ねてゐる。その二は破塚へめげづかしく、穴塚より三十米ほど下つた處にある。構造は穴塚と同じである。しかも破塚より他に運ばれたが、あま



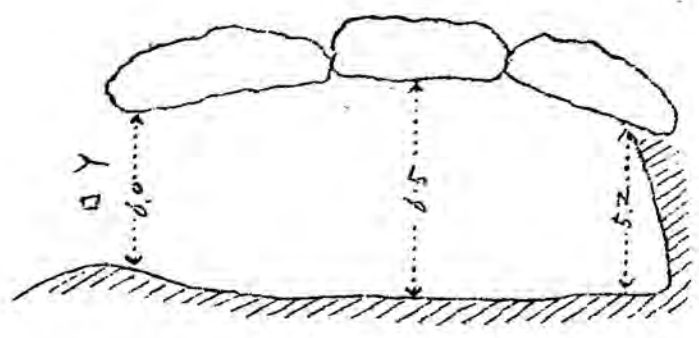
り巨岩なので中止したような形跡が認められる。内部は山土が流れ込み、雑木が繁生して僅かに古墳であることが確かめられる程度である。高サ一・九六米、奥行四・八三米、高サ一・八七米である。その三は無名塚という。構造は前記と同じ横穴式円墳にして、開口一・四五米、奥行六・〇六米である。

○ 古老の話によると以上三星の冢石は、いづれも日親堂を建立する際に、石塔に使用するために運ばれたということである。

穴塚展開図



断面



○ 東山の古墳
 東山の新宮地の東北方、吉備の中山の一帯の頂上にある。高さ三・九米、直径二一・八米の円墳である。

○ 七ツ坑
 七ツ坑へななつぐろへは川入本村から花尻方面へ通ずる縣道の南側にあ

リ。昔上盛リした古塚があつたが今は全部崩されて開墾せられ一面の田圃となりその傍はない。ただ地名として傳つてゐるのみ。思ふにこの地城は永緑、天正の頃に足守川を挟んで宇喜多、毛利の両軍が千代を交へた戦蹟地であつたので七人の戦死勇士をここに葬つたのではなからうか。七ツの古塚であつたか、或は七勇士の屍を一個所に埋葬した一つの古塚であつたかといふことはもとより考へむかふことである。

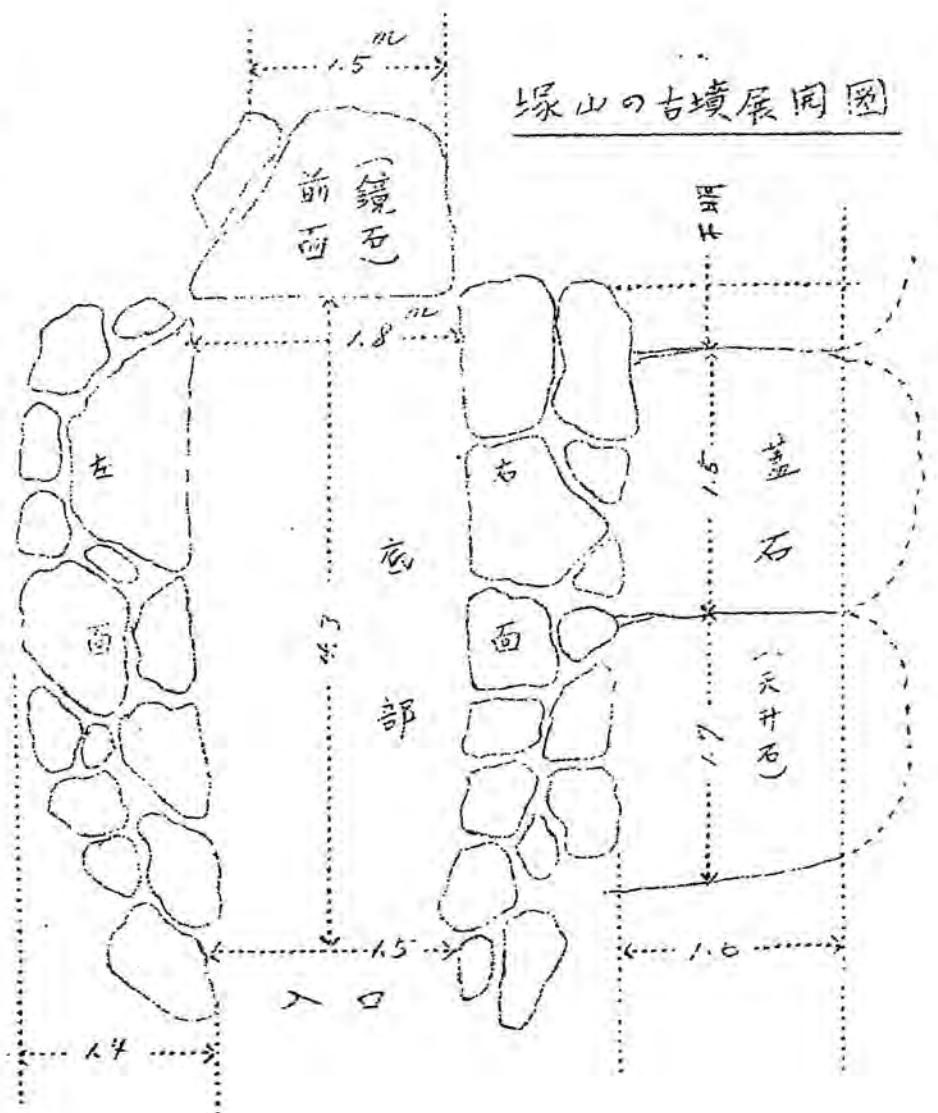
中撫川にも七ツの塚といふ地名があつて三、三平方米ばかりの土盛りが田圃の畔道に一個所ある。これは先年古瓶や人間の白骨を掘出したことがあるといふ。前述のような古戦場としての遺物ではなからうか。

○ 狐塚
 近交地内の南部帯地 所有の田地を俗に狐塚といふ。口老の説によると昔この附近は一帯の葦原で三、三平方米ばかりの土盛りした古塚があつたが後年耕作せられ青圃と化し、ついにその形は消えてしまつたといふ。狐塚の名は昔狐狸がこの附近に棲息し人目にもみえなかつたといふことならその名が起つた。また庭瀬駅を北へいつた西側、今の吉備農協の前あたりにも狐塚といふ地名が遺つてゐる。いづれも七ツの塚と同様の由来がありそうである。

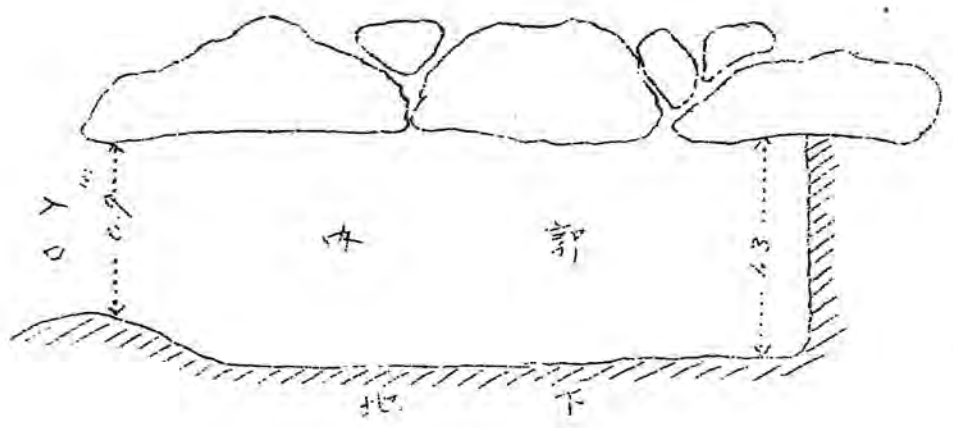
○ 塚山の古墳
 大内田の部落なら一、五畝の山道を通つて昇ると塚山の部落に出る。人家は僅かに八軒、ここから西へ草叢をわけ細い山道を二〇〇米程とくと俗に永坂といふ小丘の南に面した中腹、柘林中に円形の古墳がある。塚は南を正面として入口を開き、内部はすでに盗掘せられなにも残さず。五

も遺つてゐない。

塚山の古墳展開図



断面



個の巨岩を用いて一、五米、長さ四、三米、高さ一、三米にして天井石は三個の如く間口一、五米、長さ四、三米、高さ一、三米にして天井石は三個の附近には数基の古墳が存在してゐたが、悉く崩壊せられたり、崩壊して、家石なども他に運ばれた。唯この古墳のみ一基は残存してゐる。住民の話によると東方福田村との境界附近に一基の古墳があつたが、明

治の中期に祭掘して内部から副葬品の勾玉、古鏡などを数多く取り出したことがある。誰れ云うとなく祖先の崇りがあると恐れ、辻堂に納めたが、湯この部落へ岡山の蓮昌寺から鬼子母神の開帳に出張してきた僧侶が、そのことを聞いて帰りの時に窺ひに全部持ち去ったという。この塚山の部落はむかし足守川の時に窮乏に全部持去ったという。軒立ち係の旅人の憩ひ場所として賑った處である。

○吉備津御陵 (参考)
 大吉備津彦命を埋葬し奉る大古墳にして、吉備の中山の一角、茶臼山の頂上にある。倍に馬頭陵へばづのをかきと、東西一〇三・六米、南北一九六・四米、周囲五九九・九米、高さ一四・五米、面積一七八・四アールである。

明治の末頃までは心なきものの自由に入出し、副葬品などを祭掘して荒されいたが、皇室陵墓令によつて現在の如く周囲に石の玉垣を繞らし御陵墓として奉祀したのである。
 人類学書によると、御墓は瓢形の大塚にして全体に岩石の鉄片相重り瓢形の頭は南に向き、塚の近傍には埴輪物の破片も散在す。
 とあり、即ち前方後円式による古墳である。(第四輯吉備の合戦参照)
 御陵からの眺望は最も佳にして、吉備町の平野を脚下に見おろし、遠く恩島の連峯を指呼の間に收められる。殊に櫻樹が多く、花朝には行樂の人で賑ふのである。

柔国蒼茫帯夕暎
 胡広中庸天下間

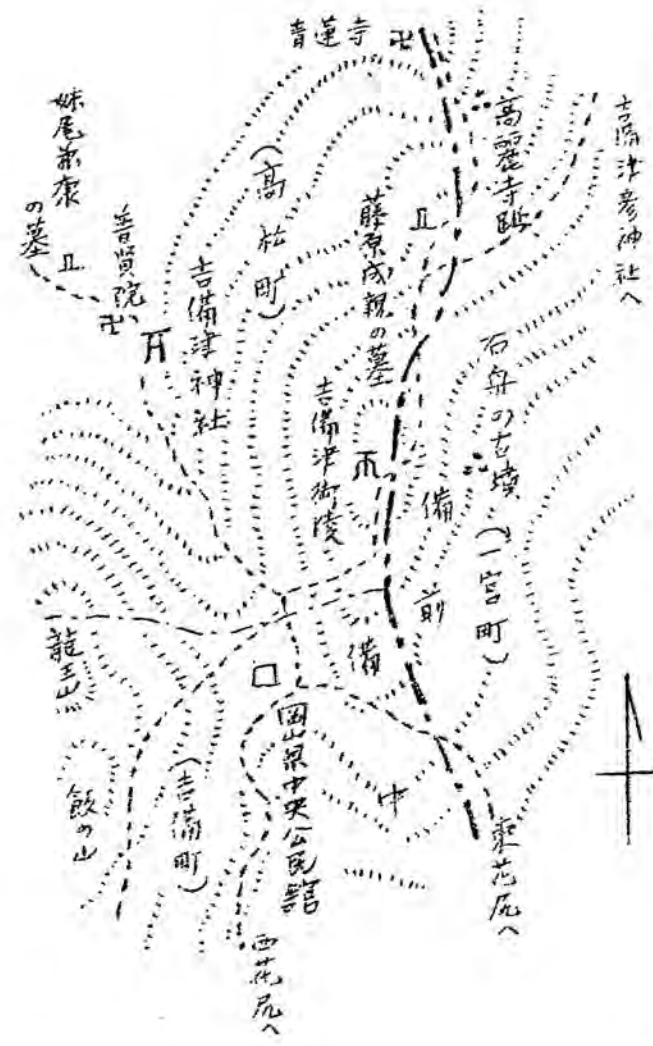
豊碑表道仰瞻名
 緯絶祀誰興一代

頼山陽
 張華博物大夫夫愧
 狄鞮回總誌三墳

千年功罪須公誨

休向古時徵慨文

△吉備津御陵附近畧圖



○石舟の古墳 (参考)

吉備津御陵から東へ山を下つた一宮町尾上の山林中にある。堅穴式の古墳にして内部に石棺がある。石棺には常に清水を混えこむるので石舟の稱がある。
 埋人は海潮の満干によつて水量に増減を生ずるといふてゐる。
 内部は入口の幅一・七米、高さ一・六米、奥行五・五米、石棺は石材を長方形の箱に割り接いでつくられたものに、厚さ〇・一八米である。

○橋築山の古墳 (参考)

都窪郡庄村矢部の西山という處の北丘にある。西山というは片岡山、王墓山、真宮山の總稱にして、片岡山が即ち橋築山である。他の二山にも古墳が多いが省略する。
 この古墳は円墳であるが今は殆んど破壊せられて、石は石材として使用せられて居り僅かに天井石其の他大形のもののみがその附近に散在してゐる。

高さ約十米頂上の直径は三四、四米、周囲一〇八米、外周りは一六四米もある大古墳である。その廻りには川石の層が露出してゐる。墳輪、円筒の破片などが発見せられたこともあつたが、今は取り去られてしまつてゐる。現状では北に古墳の鏡石があつたろうと思はれる全長三、三三米、幅二、九米、厚さ〇、一九米の一大板石がたつてゐる。

この鏡石によつて古墳の墓室と羨道の構造が想像せられる。即ち幅二、九米、奥行一六、一米の横穴式にせしめ入口から五、五米は一段狭くこの間が羨道と思はれる。この山は往古大古備津彦命が新山に根柢する温羅といふ豪族と交戦した時に布陣した處と傳へられ巨岩を楯に築かれ防壁したといふ説から起つた名である。

○ 王墓山の古墳 (参考)

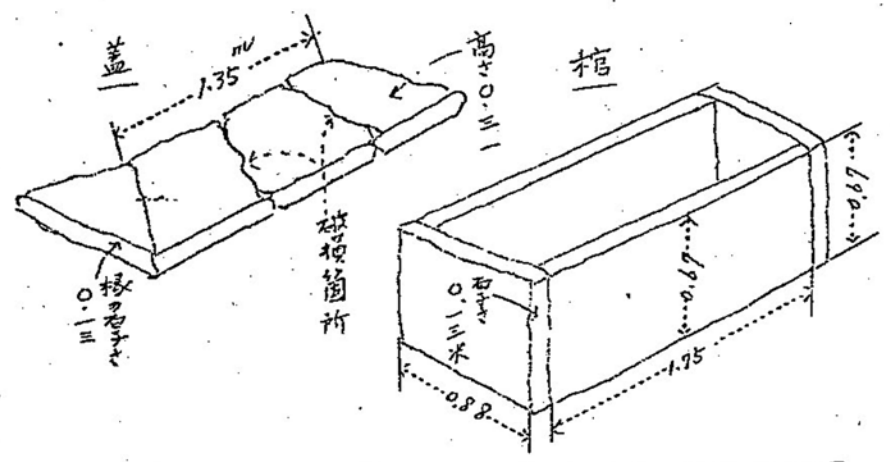
庄村日畑西組の大手にある。この古墳は明治四十五年にこの地の人矢尾唯良の先代が石椁採取の際に発見した古墳である。組立式棺と副葬品として勾玉、古鏡、鎧、刀劔など多数掘り出したがこれらは東京帝室博物館に保存せられてゐる。棺のみは山中に安置せられてゐる。その構造をみるに山おに見殺を碎いて埋合せ、コンクリートの如く堅めたものさむつて箱形に組立てたものである。

王墓山に昇る途中に赤井堂屋敷跡がある。奈良朝時代にここに寺院があつた所で、今も土中から焼けた古瓦の破片を掘り出すことがある。

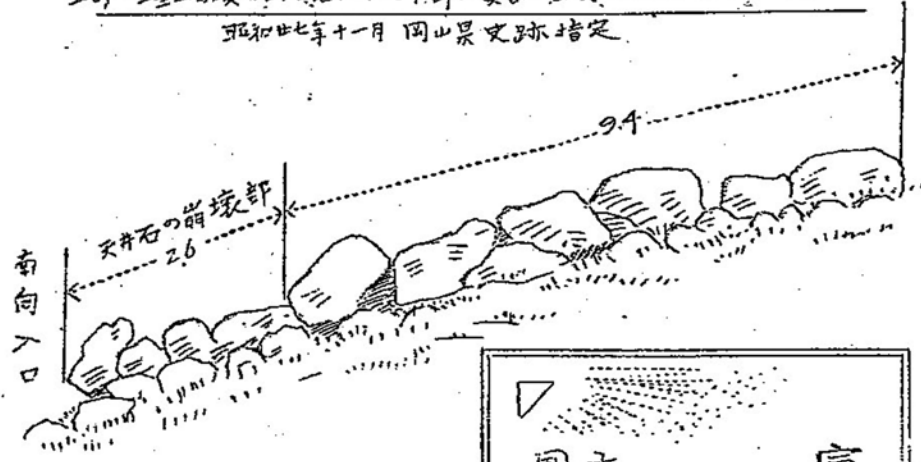
○ 真字山の古墳 (参考)

王墓山の古墳から西南にとつて尾根傳いに約三〇〇米いくと西尾の真宮神社に至る。神社の西に山腹の傾斜面を利用して築造せられた大きな古墳がある。上部の封土は流れ落ちて家石は全部露出し、内部は山おで埋まつてゐる。全長一、二米、入口の幅一、一米の長方形をしてゐる横穴式古墳である。

西山の山中にはその他大小の古墳が至る處に散在し古墳群をなしてゐるが、いづれも往年採石のため破壊せられて内部は荒れ居り或は自然に崩れて完全に遺つてゐるものは一つもないといつてよい。(おはり)



上部ハ王墓山古墳石椁見取図。下部ハ真字山古墳天井石露出見取図
昭和七年十一月 岡山県史跡指定



富士自轉車特約店

加藤自轉車商会

庄村下庄
回鉄バス・備中庄傳道所より西へ百米

卸 雑波製菓店

せんべい 佛儀・祝儀 製造箱入

御注文により調製に應じます
吉備町・撫川